

事例番号 130 川の恵みを生かしたまちづくり(福岡県北九州市・紫川地区)

1. 背景

紫川は福智山に源を発し北九州市の中心を流れて小倉港に注ぐ全長約 20 キロメートルの川である。小倉の都心を流れる川でありながら、アユやシロウオなどの魚が遡上し、上流ではホタルが生息するなど、市民の憩いの場になっている。

今では美しいこの川も、高度経済成長期においては工場廃水や生活廃水で激しく汚染されていた。美しい川を取り戻すことができたのは、市民と行政とが一丸となって浄化活動等に取り組んだからである。特に、1990 年に建設省の「マイタウン・マイリバー整備事業」の認定を受けて以来進められてきた「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」は、小倉都心部の紫川周辺に魅力ある美しい空間を再生させた。

次に課題になったのが、再生された空間において賑わいや回遊性を高めることであった。そのため、2002 年 4 月、紫川周辺の企業、商店街等の有志により「小倉都心部の回遊性の向上」と「紫川周辺の賑わいづくり」とを担う団体として「紫川マイタウンの会」が設立された。



紫川地区 (資料:北九州市ホームページ)

2. 目標

「小倉都心部の回遊性の向上」及び「紫川周辺の賑わいづくり」を目的として「紫川マイタウンの会」が発足したが、同会では、紫川周辺資源の有効活用のための研究、環境整備活動、「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」で整備された公園や川辺などの有効活用等に取り組むことを具体的な目的としている。

3. 取り組みの体制

市がハード整備を行った後、「紫川マイタウンの会」が中心主体となって活動している。同会は任意団体であるが、市から調査・事業等の委託を直接受けやすくなること等からNPO法人化も検討している(ただし、事務局の専従スタッフや事業資金の安定的な確保などの課題がある)。会員は、個人会員約 50 名、法人(団体)会員 10 数団体、賛助会員 30～40 名となっている(年会費は個人会員 1 口 3 千円、法人会員 1 口 1 万円、賛助会員 1 口 千円)。会員は常時募集している(会費が活動の資金源となるため)。

4. 具体策

(1) 紫川マイタウン・マイリバー整備事業

1990 年 8 月、「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」が建設省から認定を受け、紫川の整備や周辺の公園、道路、市街地等の整備が進められている。計画の対象区域はJR鹿児島本線鉄橋から国道 3 号貴船橋までの区間(延長約 2.0 km、面積約 170ha)であるが、当面の事業区域は JR 鹿児島本線鉄橋から中島橋(風の橋)までであり、事業期間は 1990 年度～2011 年度である。

これまでの整備により、室町大橋「火の橋」(1991 年度)、中の橋「太陽の橋」(1992 年度)、紫川大橋「海の橋」(1993 年度)、常磐橋「木の橋」(1994 年度)、洲浜ひろば(1995 年度)、紫川橋「鉄の橋」(1998 年度)、紫江'S 水環境館、勝山橋「石の橋」(2000 年度)、リバーウォーク北九州(2003 年度)、勝山公園大芝生広場(2005 年度)等が完成した。小倉城横におけるリバーウォーク北九州の建設に関しては、建築された建物が小倉城の眺望など周辺の環境に配慮したデザインであったことが評価されている。

今後の計画としては、勝山公園(中央図書館側エリア 2009 年度完成予定)、紫川周辺夜間景観(2006 年度完成予定)、城内大手町線(2008 年度完成予定)、大門木町線(2009 年度完成予定)、紫川東線(2011 年度完成予定)等の整備が予定されている。

(2) 「紫川マイタウンの会」の活動

① 会の運営状況

「紫川マイタウンの会」は毎月 1～2 回会合を開いている。イベントを開催する月は開催頻度が高くなる。立ち上げ時は地元コンサルタントが事務局業務を務めていたが、会合開催や情報伝達の円滑化のために事務局機能を強化することが必要になり、事務局長、事務局次長で構成する事務局を設置した。2006 年度からは北九州 TMO の実行組織「北九州まちづくり応援団株式会社」に事務局を置き、会員及び関係団体との連携を図っている。

会は当初、ボート部会、勝山橋橋上部会、水上ステージ部会、広報部会の4つの部会を組織した。しかし、活動エリアの拡大や運営の一体化の必要性により、2006年からは部会を事業部会に統一し、その中に水上河畔担当、橋上イベント担当等の担当制を設けている。

広報活動は事務局が担当し、ホームページの更新、ブログの開設、イベントのチラシ作成、ラジオ・テレビ・新聞等への積極的なパブリシティ活動等を行っている。

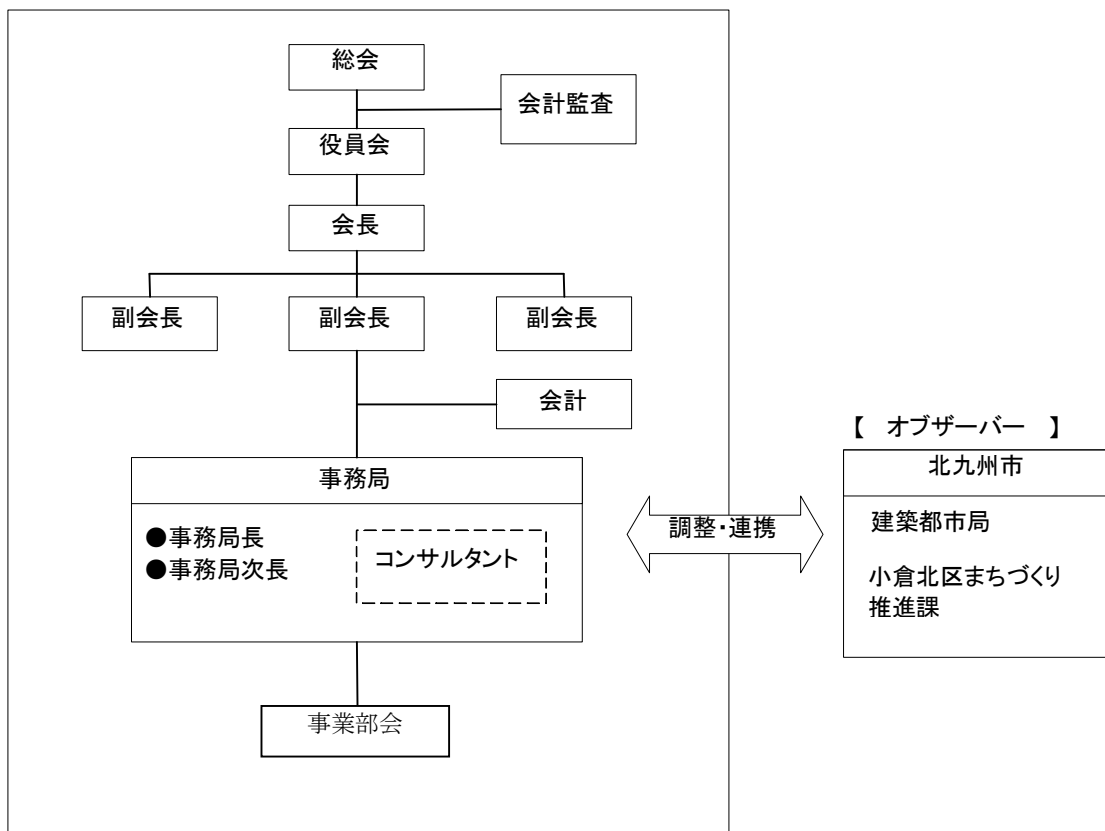
イベントの開催は紫川マイタウンの会を中心に実行委員会形式をとっているが、実行委員会には小倉中央商業連合会や北九州商工会議所も参画するなど、参加者の広がりが見られるようになっている。

会はこれまで社会実験に中心的に取り組んできたが、今後はそれらの成果をふまえ、関連諸施設のプランニング等の提言にも取り組む意向を持っている。

会の収入は主に協賛金、事業収入、会費収入である。協賛金は㈱井筒屋、リバーウォーク北九州、東京第一ホテル小倉など紫川周辺に立地している団体が拠出している。北九州市はこれまでまちづくり交付金を活用して支援してきている。会では通年事業(3月中旬～11月初旬)として紫川貸しボートを行っているが、2003年～2005年度と赤字が続いている。

なお、地元企業の間には社会貢献の気運が高まっており、地元の百貨店㈱井筒屋はボランティアスタッフが会に参画している他、紫川の清掃などにも取り組んでいる。

【 紫川マイタウンの会 】



紫川マイタウンの会の組織体制 (資料:紫川マイタウンの会)

② 会の主な活動内容

1) 概要

会では概ね下表のような活動を行っている。

「紫川マイタウンの会」主な活動内容

イベント	内容	担当
貸しボート	・紫川水上のにぎわいづくりの一環として、貸しボートを運営	<貸しボート担当> ・安心安全な運営
橋上イベント (オープンカフェ・ 産直イベント)	・勝山橋ひろば等の公共空間を活用し、 レストスペースや飲食の立案・実施 ・「地産地消」を中心に地元漁協や農協 等との連携により、産直市や大鍋イベ ントなどを開催	<勝山橋橋上担当> ・イベント企画運営 ・出店者募集、調整、管理 ・各種団体との連携による産直市 の企画立案・実施・
水上・河畔イベント	・遊覧船等の水面を活用したイベントの 立案・実施 ・ミニライブ等の水上ステージや高水敷を 活用したイベントの立案・実施 ・ラテンカーニバル、無声映画上映、クラ シック・ジャズコンサートを実施	<水上・河畔イベント担当> ・河畔や水上ステージを使っ てのイベントの企画・運営・管理
各種提言の実施	・社会実験(イベント)を踏まえた、関連諸 施設のプランニングと行政への提言 ・「河川空間の占有における特例措置」等 の各種検討	<事務局他> ・ワークショップ、勉強会の実施

(注) 紫川マイタウンの会資料より作成

2) 貸しボート

紫川は、かつては貸しボートが浮かぶ市民の憩いの場であったが、水質の悪化により姿を消していた。その後、北九州青年会議所から「紫川の清流を取り戻そう」という声が起こったのをきっかけに紫川の浄化運動が全市的に広がった。その結果、勝山橋付近では1973年度に15mg/lもあったBOD値が1998年度には1.2mg/lまで大幅に低下した。このように川の浄化が進み、京町付近の河畔を中心に水上ステージ等も整備されたことから、2002年5月、会は28年ぶりに貸しボート事業を復活させた。翌年は4月中旬から11月初旬までの期間、イベント開催等に合わせて67日間営業を行った。営業時間は10時～18時、料金は30分500円とした。その後、料金改定や開催日時変更等の試行錯誤を毎年繰り返し、現在は3月中旬から11月初旬までの土日・祝日に料金20分300円で実施している。事業の運営は当初11人体制とし、徐々に人員を調整する方針であったが、20台あるボートの出し入れには最低7人程度のスタッフが必要であり、それ以下にスタッフを削減することは安全面で困難な状況にある。会では今後も状況を見ながら工夫を重ね、運営体制を整備する必要があると考えている。

3) イベント

会では春・夏・冬・秋の季節ごとのイベントの他、年末など不定期のイベントも開催している。

2005～2006 年度に実施した主なイベント (資料:紫川マイタウンの会)

イベント	事業結果	効果(観客数・利用客数)
遊びにおいでよ 紫川!春2005 (4/29～5/8)	<p>■主な企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紫川貸しボート ・勝山橋オープンカフェ <p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市発祥のポン菓子加工実演などを行い、かつてないほどの賑わいでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニトレイン[約 3,300 人] ・紫川貸しボート[約 2,200 人] ・勝山橋オープンカフェ[約 15,000 人] ・紫川遊覧屋形船[約 200 人] ・ファミリーバイキング屋形船[約 200 人] ・スプリングフェスタ in 小倉[約 2,200 人] ・小倉ふれあいスタンプラリー[約 2,400 人]
マイリバーサマー フェスティバル 2005 (7/23～8/28)	<p>■新たな企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紫川トロピカルナイト ・紫川ウォータースケープ ・紫川ラテンカーニバル ・紫川手づくりいかだコンテスト <p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間中はマスコミにも数多く取り上げられ、長期間の開催にも関わらず、好評のうちに幕を閉じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紫川ラテンカーニバル[約 48,000 人] ・バーベキューガーデン[約 12,000 人] ・リバーサイドビアデッキ[約 10,000 人] ・紫川クルーズ[約 5,900 人] ・紫川花火屋形船[約 150 人] ・紫川遊覧屋形船[約 200 人] ・紫川貸しボート[約 1,200 人] ・手づくりいかだコンテスト[約 1,000 人] ・勝山橋オープンカフェ[約 25,000 人] ・自転車タクシー[約 6,000 人] ・ミニトレイン[約 5,200 人] ・紫川かわべ祭り[約 2,000 人] ・第6回チャイナドレスの似合う人大集合! [約 3,000 人] ・リバーウォーターコンテスト vol.3[約 3,000 人]
遊びにおいでよ 紫川!秋2005 (10/14～10/16)	<p>■主な企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京町・室町大鍋バトル2005! ・紫川遊覧ワイン船 <p>■新たな企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わいわい秋の味覚市 <p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺で行われる様々なイベントと連携し、小倉都心全体の回遊性向上と賑わいを創出しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紫川水上クラシックコンサート[約 1,500 人] ・京町・室町大鍋バトル[約 2,500 人] ・紫川無声映画祭[約 1,000 人] ・紫川水上ポップス&ジャズコンサート [約 3,500 人] ・勝山橋ホクホク食堂[約 4,000 人] ・紫川貸しボート[約 410 人] ・紫川遊覧ワイン船[約 150 人] ・豪快青空市[約 4,000 人]
遊びにおいでよ 紫川!冬の市 (2/4～2/5)	<p>■主な企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山橋ホクホク市場 ・紫川遊覧カキ鍋屋形船 <p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の新鮮な食材を使ったイベントは大変好評でした。また、新北九州空港のPRも行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝山橋ホクホク市場[約 3,000 人] ・紫川遊覧こたつ船[約 50 人] ・紫川遊覧カキ鍋屋形船[約 100 人]



イベントの風景（資料：紫川マイタウンの会ホームページ掲載写真から作成）

4) その他

夏の紫川サマーフェスティバルや冬の「小倉食市食座」等、春夏秋冬のイベントでは小倉のまちづくりを考える会をはじめとして、中心市街地の活性化を目指す様々な団体と連携して小倉周辺の賑わいづくりに取り組んでいる。周辺企業の榊井筒屋やリバーウォーク北九州も積極的に各種イベントの企画運営に関わり、2006年春には勝山公園大芝生広場完成記念として、数多くのイベントを開催した。



イベントのポスター（資料:紫川マイタウンの会）

5) 行政との連携

基本的には、案内看板や休憩施設(テーブル、椅子等)の設置などインフラとなるハード整備は行政の役割、それ以外のソフト部分は民間の役割となっている。北九州市建築都市局は「マイタウ

ン・マイリバー整備事業」で整備された空間の利活用を促進する事業を地元コンサルタントに委託し、「紫川マイタウンの会」と連携しつつ、地域住民の意見を取り入れながら社会実験としてのモデルイベントを行っている。

北九州市は、小倉都心を夜間も人が集まり楽しめる空間とするため、2002～2003 年度に総事業費約 2 億円をかけて「紫川周辺夜間景観整備事業」を行った。2003 年度は紫川の橋や小倉城の石垣のライトアップを毎日日没から午前零時まで実施、2004 年からは土・日曜日に市庁舎のライトアップも実施している。

5. 特徴的手法

紫川周辺において橋上をも含めて立体的な賑わい空間を演出している点が大きな特徴である。勝山橋は幅が約 40mあるが、紫川下流側の幅 24mは道路事業で整備された「道路」である一方、上流側の幅 16mは市の都市計画公園に指定された「公園」である。両者の境界にはフラワーポットなど人が容易に動かせない構造物を置いて空間を分離している。上流側には「勝山公園」の表示も設けられている。上流側の幅 16mの範囲に道路交通法の規制が及ぶか及ばないかをめぐっては約一年間警察との協議が続いたが、2002 年、構造的にも道路と分離されているとの判断が下され、橋上における長期間のイベント開催が可能になった。ちなみに、パラソルショップの先進地として「紫川マイタウンの会」が視察した徳島市の事例においても、河川の両岸を「道路」でなく「公園」に指定して利用の自由度を高めている。そこは当初からイベント用に整備した空間であるため、橋上には電気設備等が設置されている。



勝山橋上の風景

6. 課題

今後更に事務局機能を強化することによって収益事業に取り組み、会の自立を促すことが課題となっている。各種イベントに関しては、川という場所柄、天候に左右されやすいという問題があり、雨天や日差し、風に対応できる施設・設備の導入が検討されている。更に、効果的なイベントの情報発信により市外、県外からの来街者・観光客の増加も図りたいと会では考えている。

(参考・引用文献)

紫川マイタウンの会ホームページ